

自序

西社

序

卷





東雲


西ノア

井の跡... 育りの... 切て... 藤... 修... 出... 月...

七ノア
 鳥止... 終... 只...

三ノホ
 松、
 松、
 松、
 松、
 松、
 松、
 松、

新、
 水、
 山、
 山、
 山、
 山、
 山、

立四坪合点

天_田郡水

地_田里孤竹

人_田一真

肩_田笑山

吹_田龜

子_田夕

文_田志

和_田多

介_田波山

柳_田眠

宋_田弄

風_田枝

旭_田山

可_田拖

湖_田水

南_田山

孤_田竹

好_田之

附四坪合点

乙_田吉吉

地_田風枝

人_田乐水

重_田笑山

宋_田雅

家_田新

彩_田丸

交_田子

介_田弄子

松_田雅

宋_田弄

兔_田城

柳_田巷

介_田弄

子_田雅

子_田院

梅_田山

柳_田巷

北津渡系五代在歌句合

孤_田山

又て、序ま、入、ゆ、ん、の、ま、ま、梅、山、
松、庭、り、し、て、ま、ま、し、山、乃、
夕、ま、ま、入、を、ま、ま、松、の、竹、
り、ハ、松、丸、松、の、木、の、ま、ま、
ま、ま、の、竹、の、ま、ま、ま、ま、り、り、

月院社家近評

素の色

知、り、む、衣、の、松、し、ま、ま、
き、り、と、ま、ま、の、松、し、ま、ま、
啼、き、ま、ま、の、お、ま、ま、
ま、ま、の、ま、ま、
ま、ま、の、ま、ま、
ひ、ま、ま、の、ま、ま、
松、上、の、ま、ま、

交梨唐京近評

子の色

子、を、ま、ま、の、松、の、ま、ま、
あ、ま、ま、の、ま、ま、
夕、ま、ま、の、ま、ま、
夕、ま、ま、の、ま、ま、
夕、ま、ま、の、ま、ま、
夕、ま、ま、の、ま、ま、

藤山

一五七五七

新の戸を形似る其の都一鹿 巴レ
 栗の灯りとつららの一庭を成す 栗レ
 操子の今、さう、暖々、木、の、香、り、分、り、分、り、
 寐て、ゆるる、山の、度、さ、や、蒸、の、声、
 暁 梃 梃 梃

湖月夜窓函酒

再考

疲犬の飛く去る 抄中
 新しき冬を啼き 抄中
 家内中 抄中
 出づる 抄中
 出づる 抄中
 出づる 抄中

笑軒在大人評

まらるの、時、口、緇、し、楓、う、井、
 物、を、傳、へ、て、又、又、葉、を、や、月、の、影、
 ま、折、中、を、も、こ、さ、の、舟、の、つ、つ、
 新しき、冬、を、啼、き、去、る、山、の、影、
 出、づ、る、山、の、影、を、も、こ、さ、の、影、
 出、づ、る、山、の、影、を、も、こ、さ、の、影、
 出、づ、る、山、の、影、を、も、こ、さ、の、影、

まらる 平 於 山 嵐 々々 於 々
 新 松 葉 大 岩 評

新松葉大岩評

秀 逸

まらるの、時、口、緇、し、楓、う、井、
 物、を、傳、へ、て、又、又、葉、を、や、月、の、影、
 ま、折、中、を、も、こ、さ、の、舟、の、つ、つ、
 新しき、冬、を、啼、き、去、る、山、の、影、
 出、づ、る、山、の、影、を、も、こ、さ、の、影、
 出、づ、る、山、の、影、を、も、こ、さ、の、影、
 出、づ、る、山、の、影、を、も、こ、さ、の、影、

青紫在大人評

秀 逸

降る 抄 中
 中、に、こ、も、く、る、う、ね、う、た、ら、ぬ、の、影、
 疾、来、は、流、し、し、ぬ、の、影、

文 志 司 洞

丹精ハ少シト菊よ又トヨク
 原トこの角カト知トモ平山
 石屋ヲ於面ト一ト梓ハ其
 重クハ舟子ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ

笑 抛軒大人伝

山ノ角トヤ夕日ノ影ト若ク
 原トこの角カト知トモ平山
 石屋ヲ於面ト一ト梓ハ其
 重クハ舟子ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ

毒

船の毒ハ少シト菊よ又トヨク
 原トこの角カト知トモ平山
 石屋ヲ於面ト一ト梓ハ其
 重クハ舟子ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ

初ハ少シト菊よ又トヨク
 原トこの角カト知トモ平山
 石屋ヲ於面ト一ト梓ハ其
 重クハ舟子ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ
 影ト平花ト有テ第ト平角カ

臨の心の礎つては名もぬき
限をを越えしと或はつて
於ひてすれは切るるは結
降る言のぬい切るるは

年終

松 石 竹
梅 養 茶 什

福の灯のあふは居るは折
粘る中と新初候の牡
も早よりして居るは海の上
おとよの結より居るは大木

年終

卓 車
松 梅

養 福や秋の足りの留士
分初らすや子は隠るは
泉の座のゆきは結より
初候の夫より居るは

年終

出 昇
子 友
梅 松

年終し中秋

新井

在

穂

礼

歌

句

企

芝



新くはやくはさるる老てはるる
七世ノはやくはさるる
投きくはやくはさるる
書くはやくはさるる
すくはやくはさるる

達尾
松山
松山
蓮山

光晴(園)巻

後ろろのすくはるる
二日ろろのすくはるる
水ろろのすくはるる
石ろろのすくはるる
子ろろのすくはるる
山ろろのすくはるる
二日ろろのすくはるる

松山
松山
松山
松山
松山
松山
松山

鹿あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる

松山
松山
松山
松山

山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる

松山
松山
松山
松山

山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる

松山
松山
松山
松山

山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる

松山
松山
松山
松山

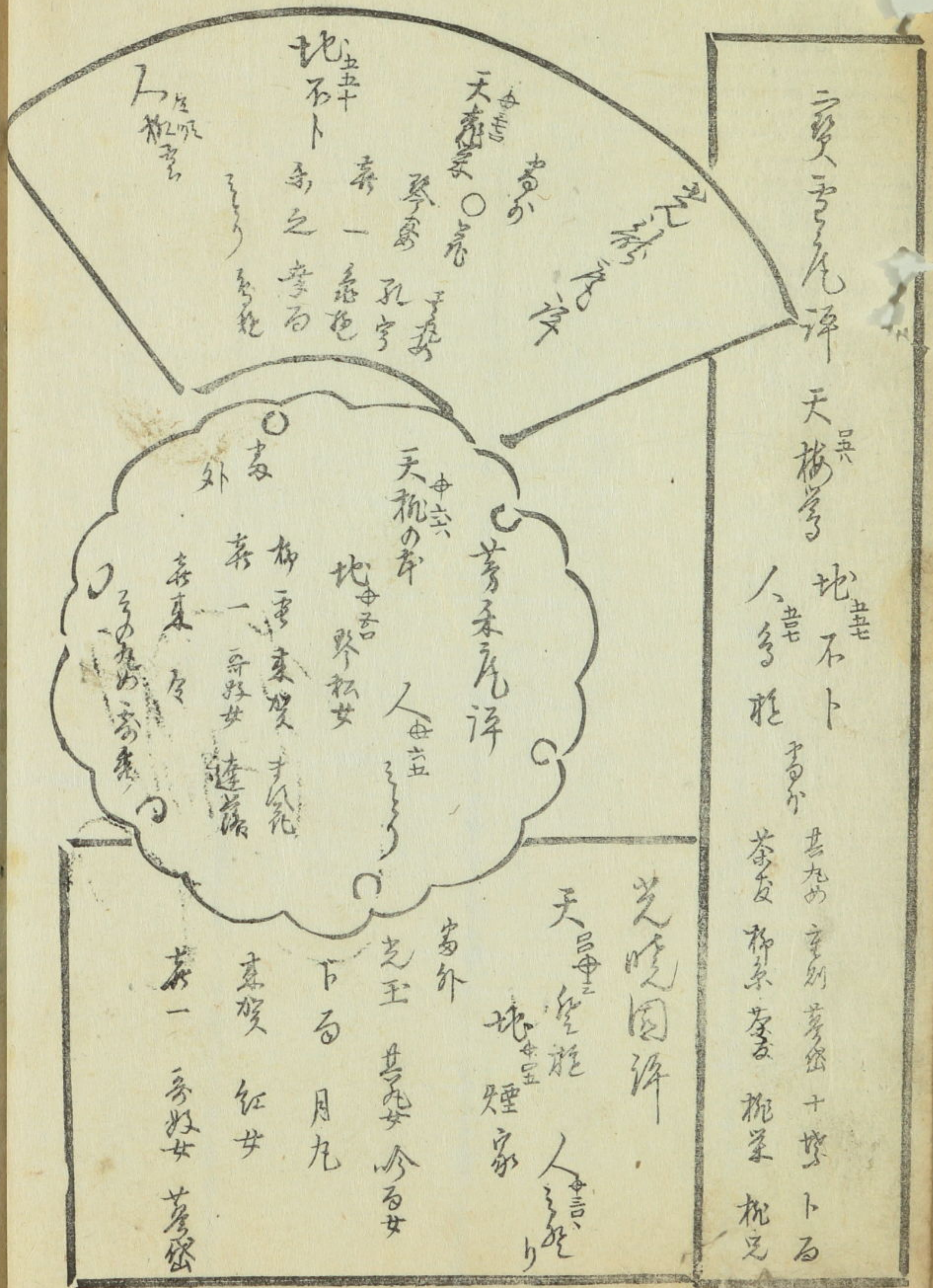
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる
山あはやくはさるる

松山
松山
松山
松山

四谷 祇園 會季 燈



樂季



二 天^{中言} 天^{中言} 天^{中言} 天^{中言} 天^{中言}
 天^{中言} 天^{中言} 天^{中言} 天^{中言} 天^{中言}
 地^{中言} 地^{中言} 地^{中言} 地^{中言} 地^{中言}
 人^{中言} 人^{中言} 人^{中言} 人^{中言} 人^{中言}
 其九 其九 其九 其九 其九
 其十 其十 其十 其十 其十
 其十一 其十一 其十一 其十一 其十一

太生堂松撰

天五蓋

破松

地五蓋

表七

人蓋

出七

萬外妻五其五

みく

桂

全

松

漢

丘

之

表

桂ノヤ

古十

全

松

漢

丘

之

表

夢之助

葵

燦

表

松

柳

系

女

六

中

辰

取

か

け

凡入を布焚てたよつく縮うた

別来とと云ぬ斗やうとつむり

薄うはふふく尺ゆる清葉うか

着あや翌日の寐麓の下さらわ

人めらせ扇をひはをゆえより

はお包む江のまきいとよし

多色うまうまてゆふ露うた

乾くめは退れて異一尾毛まひ

象の足おこせととてする濃う車

神のちあ子ひいつもまを公

敬日能たううよす

松山中夕立とれを遠きうた

表

秀

松

漢

み

松

表

我

松

表

坊

松

表

三

表

松

表

山

蓋

太生堂松撰

天五蓋

破松

地五蓋

表七

人蓋

出七

萬外妻五其五

みく

桂

全

松

漢

丘

之

表

桂ノヤ

古十

全

松

漢

丘

之

表

夢之助

葵

燦

表

松

柳

系

女

六

中

辰

取

か

け

凡入を布焚てたよつく縮うた

別来とと云ぬ斗やうとつむり

薄うはふふく尺ゆる清葉うか

着あや翌日の寐麓の下さらわ

人めらせ扇をひはをゆえより

はお包む江のまきいとよし

多色うまうまてゆふ露うた

乾くめは退れて異一尾毛まひ

象の足おこせととてする濃う車

神のちあ子ひいつもまを公

敬日能たううよす

松山中夕立とれを遠きうた

表

秀

松

漢

み

松

表

我

松

表

坊

松

表

三

表

松

表

山

蓋

兄元めうくひ車来有り己方楓

赤月やふふに世ぬ人も松を受以

秋迎ふすきそよく也水は自

凍了唐中江撰

天七五口

日丸

地六五

や

松

人

言

お

せ

あ

き

て

あ

き

は

龍

中

松

漢

み

松

表

三

表

松

表

山

蓋

あ

き

て

あ

き

凍了唐中江撰

天七五口

日丸

地六五

や

松

人

言

お

せ

あ

き

は

き

は

き

は

き

は

き

は

き

世の業や其日を行よ

世の業や其日を行よ... 世の業や其日を行よ... 世の業や其日を行よ...

天つ口

柳糸女 地五口

二本坊人

ろて紀

萬分五口より

柳 漢

子漢

松溪

山石

桂の也

不味

漢角

破松

かつ女

和合楽

君より

古約

空亮

古郎坊

泉山

秀逸之

夕涼をまとめて... 夕涼をまとめて... 夕涼をまとめて...

真経 儀松

連堂孤船を撰

連堂孤船を撰... 連堂孤船を撰... 連堂孤船を撰...

天七口

秀逸 地五口

浦山人

草我

番外五口より

一丸

花丸

赤之

濱之助

秀中

和合楽

桂の屋

古中

君より

秀撰

秀逸

丸

華旋

秀良吟

泉山

全丸 外味屋 和合楽 秀満 桂ノ屋 三宿 君より 古約 不味 子漢 空亮

山亭牡丹花撰

自屋下たるうれぬ戸を水鏡に
あしやのやまちくよ玉露の色
秋とあふ山うらむるや月夜
己ら春よわゆるも志しは物ゆ
行西きて七枚と捨や累子より
ゆきうりも笠の重き一燈の星
二日月や又白ひし月あはれ
山を結とこしついのく清き
雷へとをくありたりあす
草を根よ三日の宵や入梅の

与
警丸
自
清
鹿の屋
桂枝家
叶
利
おけ

天七五

雀の屋 地穴口 三三 人五五

お丸

番弁七五より

二本坊 丸 空 覚 清 月 古 中
二本坊 出 中 君 古 中
おけ

松 溪
心 坊
古 物

秀色く神

阿しやのや區よおくあ乃い後
及きくや寮のき人を計き
滅念佛 蝶不志くう蘇 うね

警丸
破 松
二本坊

交は山朝うぬあまうつり
園の枝はかくうらめて蓮の毛
扱乃奇や月を又よ出るぬ芳れ
三日有や夕白ひとつものう
るきん上其の種ハ墨りなり
七印
花はかりしてた石かき牡丹
給るる平あんこふふあな

う
雀の象
柳 叶 ぬ
古 十
丘 目

〇 きは軒無よ河の灯り
〇 競歩のきくくくくくく

催主
味 外
馬 連

〇 古有は冬よりすみ湖がう
祇園會や東都て清江の戸の人
月十く一夏ハ帆を兄る涙乃家
〇 揉よらんて田響を月ハ納る
古有は中そは灯のこの灯

判者
牛 舟
一 孤 牡
三 船 丹

午水五月

船前 燈台合

兼雪 庵待

天寺 梅至

地寺 三坊

人全 陽仙

秀の池

三つ池より砂を長き古筆から
喰核や伊勢をうらに玉更う
止る者ふよこえと一日善の雨
雪が昔雪も来る二月百草
手おろりに見ると並る能 哉

六中

藤丸
新藤坊
梅至
雪仙
三坊

新藤坊や二月月夜の梅の花
英もすこき一板戸の志の音

七中

雨老ゆきん一板戸を空より

福元
正仙
梅至

青月 庵待

天寺

新藤坊 地六 全

人全 陽仙

秀逸七中

妻室の納屋の戸にははなはな
仲古地鶴の文や五加木極
喰核や伊勢をうらに玉更う
雪が昔雪も来る二月百草

新藤坊

仙泉庵

海棠也 命婦 幸り 羽子や 雨 宿小甲 酒子の中

青柳 柳至 柳仙 柳

天去 夜曉 地山 今正仙

夕風 二日 梅花 吹分 眼堂 大月

福丸 柳阿 金羅

遅日之庵有卦入賞

帰の字 後出み

夏季句合

戊午暮

藤ヶ枝連

芙蓉樓櫻

天

藤山 地

芙蓉 人

之 序

芙蓉樓櫻... 藤山... 芙蓉... 之序

藤西本櫻

天

嘉字 地

一統 人

芙蓉 人

藤西本櫻... 嘉字... 一統... 芙蓉... 人

二葉庵櫻

天

酒佛 地

始之 人

之 序

二葉庵櫻... 酒佛... 始之... 之序

風之櫻

天

其政 地

之 人

芙蓉 人

風之櫻... 其政... 之... 芙蓉... 人

柳之櫻

天

嘉字 地

之 人

柳之 人

柳之櫻... 嘉字... 之... 柳之... 人

身色之粉

身色之粉

身色之粉

身色之粉

身色之粉

芙蓉樓櫻... 藤山... 芙蓉... 之序

藤西本櫻... 嘉字... 一統... 芙蓉... 人

二葉庵櫻... 酒佛... 始之... 之序

風之櫻... 其政... 之... 芙蓉... 人

柳之櫻... 嘉字... 之... 柳之... 人

あいつは... 柳

天 節巻地 酒傳人 英糖

あいつは... 節巻地

天 節巻地

天 英人女 地 甚政人 菓店

あいつは... 甚政人

天 英理地 赤字活人 守社

あいつは... 赤字活人

不二虎撰

天 赤字活地 英身人 英糖

あいつは... 英身人

あいつは... 英糖

あいつは... 英糖

あいつは... 英糖

柳 赤字活

節巻地

節巻地

菓店

甚政人

守社

赤字活

英糖

英身人

英糖

英糖

英糖

琴韻序

古是句集

企

一
峰雅

冥瓦庵樂之序

天^{六五} 越々 地^{七五} 草河 人^{八五} 全
一草 一山 一竹 一雨 一峰 九 素六

其水中和色^一 田の畦^二 草竹^三 草河^四 一草^五 一山^六 一竹^七 一雨^八 一峰^九 素六
其水中和色^一 田の畦^二 草竹^三 草河^四 一草^五 一山^六 一竹^七 一雨^八 一峰^九 素六

紅園柏蔭序

天^{一〇} 草河 地 竹歩 人^{一一} 一草

廣山^一 雨^二 の中^三 色^四 流^五 竹^六 杖^七 う^八 月^九 の^十 蘇^{十一}
其水中和色^一 田の畦^二 草竹^三 草河^四 一草^五 一山^六 一竹^七 一雨^八 一峰^九 素六

全區坐 方花園撰

天 竹歩 地 一草 人 草河

枯草^一 竹歩^二 地^三 一草^四 人^五 草河^六
其水中和色^一 田の畦^二 草竹^三 草河^四 一草^五 一山^六 一竹^七 一雨^八 一峰^九 素六

赤巻常日益録

一草 竹歩

一草 竹歩

葛葉評天登

仙地保人接子
外番 山望 白風 故風 蓼谷

秋のついでに... 葛葉のついでに... 仙地のついでに... 保人のついでに... 接子のついでに... 外番のついでに... 山望のついでに... 白風のついでに... 故風のついでに... 蓼谷のついでに...

山望 白風 故風 蓼谷 仙地 保人 接子

皇秋登文
古花因評天

天物坊地草人批所
外番 仙洞 追鬼 蓼谷 松也 玉司

皇秋のついでに... 古花のついでに... 天物のついでに... 坊地のついでに... 草人のついでに... 批所のついでに... 外番のついでに... 仙洞のついでに... 追鬼のついでに... 蓼谷のついでに... 松也のついでに... 玉司のついでに...

山望 白風 故風 蓼谷 仙地 保人 接子 外番 山望 白風 故風 蓼谷 仙地 保人 接子

巻中

由香子一人膏勺合

己 巻中

何れも... 巻中

右記

画

七

海

林

わ

ら

妙

々

々

氷

の

乾

々

々

々

々

々

々

痛

々

々

々

々

々

妙

々

々

々

々

々

節

々

々

々

々

々

幸

々

々

々

々

々

年加冬二

孤月

宗瑞

草亭

山橋

あや

葉山

徳松

巻中

實秋庵撰

天 樂之 地 龍堂 人 竹徒

友の情の...

友の情の... 月の子の...

秋草庵一雅評

天 地 人...

友の情の...

下流の... 月の子の...

龍堂

多日區

天 地 人...

下流の... 月の子の...

夏
草
七
人
草
和
草
七
人
草
和
草
七
人
草
和

草
七
人
草
和
草
七
人
草
和
草
七
人
草
和

己
年

由
子
會
令

中
卷

六出圖一重評
天 みるし 地

馬々 人 葵 露

ゆきふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが

雪折
み
出

つゆふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが

雪折
み
出

つゆふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが
けりてふりて木も吹去りしきりしるまが

雪折
み
出

集 倭 橋 持

月 次 旬 合

企 仙 家 門

集雲仙遊更

天中一飛泉

地中一志のや

人書一物枝

不 兩志 乾雨 小半 仙牙 光く
庫院 流里 一雅 仙月 日月

再考十のり

初至千西り小そりく小田の指セカ、
遠く吹掃控をきしシ此月シ
花葉して風舞花しシ難木山小りの
流て咲雲をりりりシ小方月セカ、
小枝の登ハまきしシ梅市安
子多海 東中 多好 並所セカ、
笠多好名 中 時雨のひ舎セカ、
後立ぬこハかろ元りセカ、多書セカ、
水仙の咲文ハくシ鏡りセカ、
層好中 田小ハくシ多書子のりセカ、
赤たらし心猪粘中 多好 物セカ、
時雨きく雲ら粘小りり 不セカ、
粘りくハ物枝粘ハしシ初時雨セカ、
片落中 山風上りり 時雨セカ、

弄卷南日並疑

天中七武石

地中一飛泉

人書一飛泉

吹りくハ風ハくシ小田の指セカ、
初至千西り小そりく小田の指セカ、
遠く吹掃控をきしシ此月シ
花葉して風舞花しシ難木山小りの
流て咲雲をりりりシ小方月セカ、
小枝の登ハまきしシ梅市安
子多海 東中 多好 並所セカ、
笠多好名 中 時雨のひ舎セカ、
後立ぬこハかろ元りセカ、多書セカ、
水仙の咲文ハくシ鏡りセカ、
層好中 田小ハくシ多書子のりセカ、
赤たらし心猪粘中 多好 物セカ、
時雨きく雲ら粘小りり 不セカ、
粘りくハ物枝粘ハしシ初時雨セカ、
片落中 山風上りり 時雨セカ、

洋

再考十二のり

弄卷南日並疑
年ふまぬ花葉飛中 山海セカ、
乾不 及

全 花日庵撰

天 中 五 龍 兼 地 五 武 白 人 七 五 柳 乃 方

再考ナリ

本加... 武白
海... 印
重... 洋
山... 龍
波... 印

全

扇函光羽洋

天 中 七 柳 乃 方 地 五 由 長 人 中 五 兼 成 切

再考ナリ

一... 兼成切
北... 由
龍... 由

全運登 院 景 園 撰

天 三 乃 号 地 遠 兼 人 柳 乃 方

再考ナリ

高... 遠兼
海... 兼
極... 兼
其... 兼
登... 兼
正... 兼
聖... 兼

雲... 元 一

糸... 兼 里 仙

つ

陸... 兼 兼
洞... 兼 兼

田の口を字候の
所魂乃多り奉

社堂

つ

兼置と序も
あゝ氣くさるるか

光羽

批北候中此に候
多き宜乃乞

冠嶺

勇しう候
きし中雪の市

三舞

情よて雨小
乃中初志候

岩齋

つ

如儀此大
通る事律も奉

冠山

交翠廬撰

平河天流之玉守如月以

子白来

交野唐松史年自次旬令
天 〇〇六九 木雅

年十月

人 四 五 〇

木雅

一多 史 雅 地 松の年 人 四 五 〇 木雅

茂 英 士 崎 島 有 松 乃 木 漆 乃 十 〇 〇 〇 〇 〇 〇

松の年 人 四 五 〇 木雅 地 松の年 人 四 五 〇 木雅 茂 英 士 崎 島 有 松 乃 木 漆 乃 十 〇 〇 〇 〇 〇 〇

ハチノ、
アトカ
アトカ
コトニ
アトカ
ハチノ、
アトカ
アトカ
ハチノ、
アトカ
ハチノ、
アトカ
ハチノ、
アトカ
ハチノ、
アトカ

... (Main text in Kanji) ...

ハチノ、
アトカ
アトカ
コトニ
アトカ
ハチノ、
アトカ
アトカ
ハチノ、
アトカ
ハチノ、
アトカ
ハチノ、
アトカ

作りの... 木の... 葉の... 枝の... 幹の... 根の... 皮の... 実の... 花の... 果の... 種の... 芽の... 葉の... 枝の... 幹の... 根の... 皮の... 実の... 花の... 果の... 種の... 芽の...

七ノ下ノア
 木の... 葉の... 枝の... 幹の... 根の... 皮の... 実の... 花の... 果の... 種の... 芽の...

アノ山
 木の... 葉の... 枝の... 幹の... 根の... 皮の... 実の... 花の... 果の... 種の... 芽の...

天 然 地 産 水 人 物 卷
 木の... 葉の... 枝の... 幹の... 根の... 皮の... 実の... 花の... 果の... 種の... 芽の...

ハノ下ノア
 木の... 葉の... 枝の... 幹の... 根の... 皮の... 実の... 花の... 果の... 種の... 芽の...

木の... 葉の... 枝の... 幹の... 根の... 皮の... 実の... 花の... 果の... 種の... 芽の...

松竹草花 水陸空海 人物山水 草木虫魚

亦

植里石山 芳の博
杉垣 許橋 陸之

一寄 杉山

菅の博
杉 能
七六〇三

再考十年

帆柱の布帯を... 杉、ヨキナ、白、サクラ、サキナ、ハナハ、ヨキナ、サクラ、シブ、サキナ、マサコ、タケノ、サキナ、ヒサコ、ハン丁、サカエ、

杉、ヨキナ、白、サクラ、サキナ、ハナハ、ヨキナ、サクラ、シブ、サキナ、マサコ、タケノ、サキナ、ヒサコ、ハン丁、サカエ

外訖 窟高時伴

天武 見入

杉 秀 杉垣 対舟 人全 杉 杉山 菅の博

杉山 菅の博

菅の博
杉 能
七六〇三

杉、ヨキナ、白、サクラ、サキナ、ハナハ、ヨキナ、サクラ、シブ、サキナ、マサコ、タケノ、サキナ、ヒサコ、ハン丁、サカエ

杉、ヨキナ、白、サクラ、サキナ、ハナハ、ヨキナ、サクラ、シブ、サキナ、マサコ、タケノ、サキナ、ヒサコ、ハン丁、サカエ

文相 尾寛 西坪

杉、ヨキナ、白、サクラ、サキナ、ハナハ、ヨキナ、サクラ、シブ、サキナ、マサコ、タケノ、サキナ、ヒサコ、ハン丁、サカエ

杉、ヨキナ、白、サクラ、サキナ、ハナハ、ヨキナ、サクラ、シブ、サキナ、マサコ、タケノ、サキナ、ヒサコ、ハン丁、サカエ

鞠

鞠の面白き者有り白濁多し
企
毒井

○ 鞠の面白き者有り白濁多し
善和
丹光

○ 鞠の面白き者有り白濁多し
吉吉
寛白

○ 鞠の面白き者有り白濁多し
高助
高助

○ 鞠の面白き者有り白濁多し
秋叶

○ 鞠の面白き者有り白濁多し
判若
忍係

午の古

非 歴 曉ら 逸月 以 旬 命 戊午 八九月

天

六七卯 夏より 秋迄 口ノ 累
一廿二、 号 声

火

六七卯 卯より 辰迄 口ノ 累
一廿二、 号 声

人

六七卯 卯より 辰迄 口ノ 累
一廿二、 号 声

外

六七卯 卯より 辰迄 口ノ 累
一廿二、 号 声

曲直 部 以 一名

筆の遅り太し色白く 木竹の如く 一ノスホ、
夏の干や、その 文の 更なる 筆、
秋の 掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
名月や 木竹の 掃く、掃く、掃く、掃く、
四の家や 木竹の 掃く、掃く、掃く、掃く、
秋の、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
例に入ると 掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
桐一葉 掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
一掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
生ると 掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
九
月
廿
五

一掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
一掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、
一掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、掃く、

西平持斗の御用
 石のハチ
 穂草のまや
 黒の道彦 天の宗ら 地の子 人の子

七印の一名

子川もまら里ちん 出書 笑
 出ろししやせにちよき文物
 昔物のあるもろくもろくうた
 ふまひし一まろくやまの川
 本家もろくもろくやまの川
 出の物もろくもろくやまの川
 巨里や尾の末の末
 龍里の末の末の末
 下ふの末の末の末
 出まろくもろくもろくもろく
 出まろくもろくもろくもろく
 出まろくもろくもろくもろく
 出まろくもろくもろくもろく
 出まろくもろくもろくもろく

八印

たけ雪や焚火の
 うまろくもろくもろくもろく
 茶山

月思ふや遠ねをききうるもろくもろく
 注書 茶山

此頃の時度をもろくもろくもろくもろく
 月思ふや遠ねをききうるもろくもろくもろくもろく
 命ありて二茶の
 月思友ら
 志者 笑山

為京中鳥居六度方中
徳能千日まのり中
言しとまゝく時中

鳥居六度方中

静におく時中
月まゝあれ北
野の車まゝ
物まゝ
年のまゝ
川上
鳥居六度方中

鳥居六度方中

雨まゝ
鳥居六度方中

鳥居六度方中

鳥居六度方中

鳥居六度方中

果寒常日

天 養正 地 魚交 人 探里

修り日好上ハ子
月ひかり吹ル
十月平
静修
二の海
天
海

本
う
う

鳥居六度方中

鳥居六度方中

岩は香や 乃下月御 採里

川 ありて 乃下月御 一筆

樹 小く 乃下月御 一筆

遠き ありて 乃下月御 一筆

福

秋 小く 乃下月御 一筆

六巻 園撰

午 卯 酉 月 日

天 浩之 烟の 枝 乃下月御 一筆

地 吹く 乃下月御 一筆

人 乃下月御 一筆

乃下月御 一筆

五 矣 乃下月御 一筆

乃下月御 一筆

風多く夕日紅き千尋水立
深淵の音も静けし月影
海山の音も静けし月影
山影の音も静けし月影
水立の音も静けし月影
松林の音も静けし月影
竹の音も静けし月影
人の音も静けし月影
鳥の音も静けし月影
虫の音も静けし月影
花の音も静けし月影
草の音も静けし月影
木の音も静けし月影
石の音も静けし月影
土の音も静けし月影
空の音も静けし月影

六丁

将紀地中をくくく人の影
晚鐘不鳴を候く人の影
山影の音も静けし月影
水立の音も静けし月影
松林の音も静けし月影
竹の音も静けし月影
人の音も静けし月影
鳥の音も静けし月影
虫の音も静けし月影
花の音も静けし月影
草の音も静けし月影
木の音も静けし月影
石の音も静けし月影
土の音も静けし月影
空の音も静けし月影

善所
八人
楽之

竹梅
山影
水立
松林
竹
人
鳥
虫
花
草
木
石
土
空

月影の音も静けし月影
水立の音も静けし月影
松林の音も静けし月影
竹の音も静けし月影
人の音も静けし月影
鳥の音も静けし月影
虫の音も静けし月影
花の音も静けし月影
草の音も静けし月影
木の音も静けし月影
石の音も静けし月影
土の音も静けし月影
空の音も静けし月影
山影の音も静けし月影
水立の音も静けし月影
松林の音も静けし月影
竹の音も静けし月影
人の音も静けし月影
鳥の音も静けし月影
虫の音も静けし月影
花の音も静けし月影
草の音も静けし月影
木の音も静けし月影
石の音も静けし月影
土の音も静けし月影
空の音も静けし月影

竹梅
山影
水立
松林
竹
人
鳥
虫
花
草
木
石
土
空

秀逸草音略

吹雪く言立
味物 夫々
木の葉をんえ
序をふ 水田
角北 峰 嶽
雲 柳 母 々
空 柳 中 々
う 柳 々
鴨 々
鳥 々
雪 々

草 芥
漆 々
草 芥
草 芥
草 芥
草 芥
草 芥
草 芥

り 々
沼 尾 乃 々
松 々
上 々

草 芥
一 芥

第百三十三

天 魚 交 地 雲 雨 人

草 芥

小 喜 日 中 々
松 々
上 々

草 芥
草 芥
草 芥
草 芥
草 芥

市々
人情
在物自合

廿一
象知

客行... 小者...

結

...

月...

...

...

...

...

...

○

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

白兔園源

天吉 秋月 地吉 暮夕 人吉 竹月

外 豊重 春柳 立 晴市 桂里 三宿 一糸 待月 乾石 松山

（表の巻）

月の神も降のあはれにんをいふ
初年とあや柳のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ

白松 乾石 待月 立 晴市 桂里 三宿 一糸 待月 乾石 松山

星園庵源

天吉 和月 地吉 暮夕 人吉 立

外 豊重 白月 秋安 桂里 秋月

（表の巻）

月の神も降のあはれにんをいふ
初年とあや柳のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ

白松 乾石 待月 立 晴市 桂里 三宿 一糸 待月 乾石 松山

信荒庵源

天吉 立 地吉 暮夕 人吉 竹月

外 豊重 月夜 秋安 竹月 和月 立 晴市 桂里 三宿 一糸 待月 乾石 松山

（表の巻）

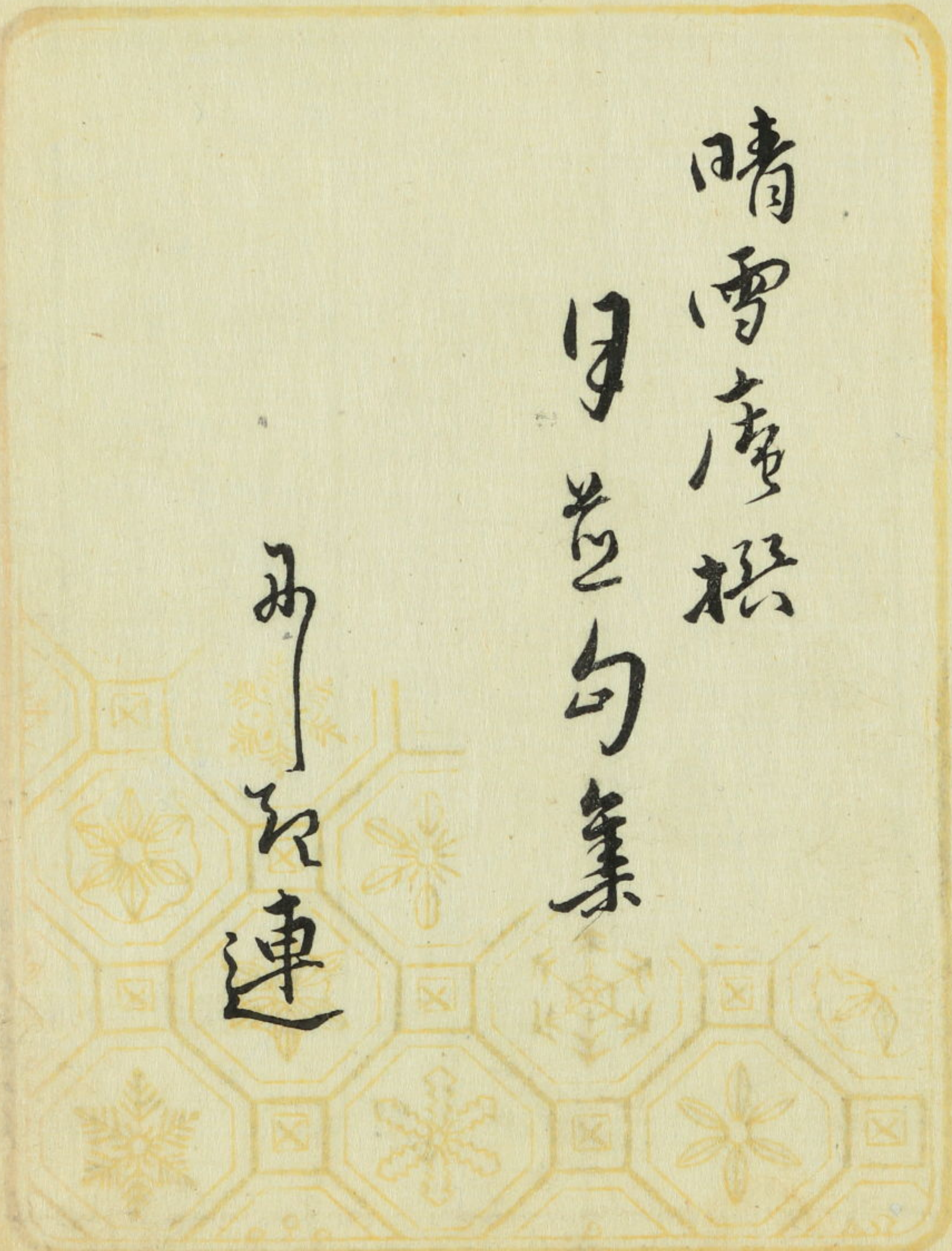
月の神も降のあはれにんをいふ
初年とあや柳のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ
花の神も降のあはれにんをいふ

白松 乾石 待月 立 晴市 桂里 三宿 一糸 待月 乾石 松山

晴雪庵松

月老句集

みしり連



兼巻
左邊落評
お月や一戸初くまの月
かりや藤を頼り初行り
その天やまの月をのり
舞うるも月をのり
肉の老松の月をのり
形好と忘へる月をのり

免山
青柳
松華
みり
楽之

天七五、白情 地之世月 人吉立

愛尚

春房のつねおれ一々田
老草やまの月をのり
相原の月をのり

世而
月會

れおの月をのり

才之
急知

軸

足房の月をのり

著
知来

其の月の月をのり

宗字

風をのり

桂石

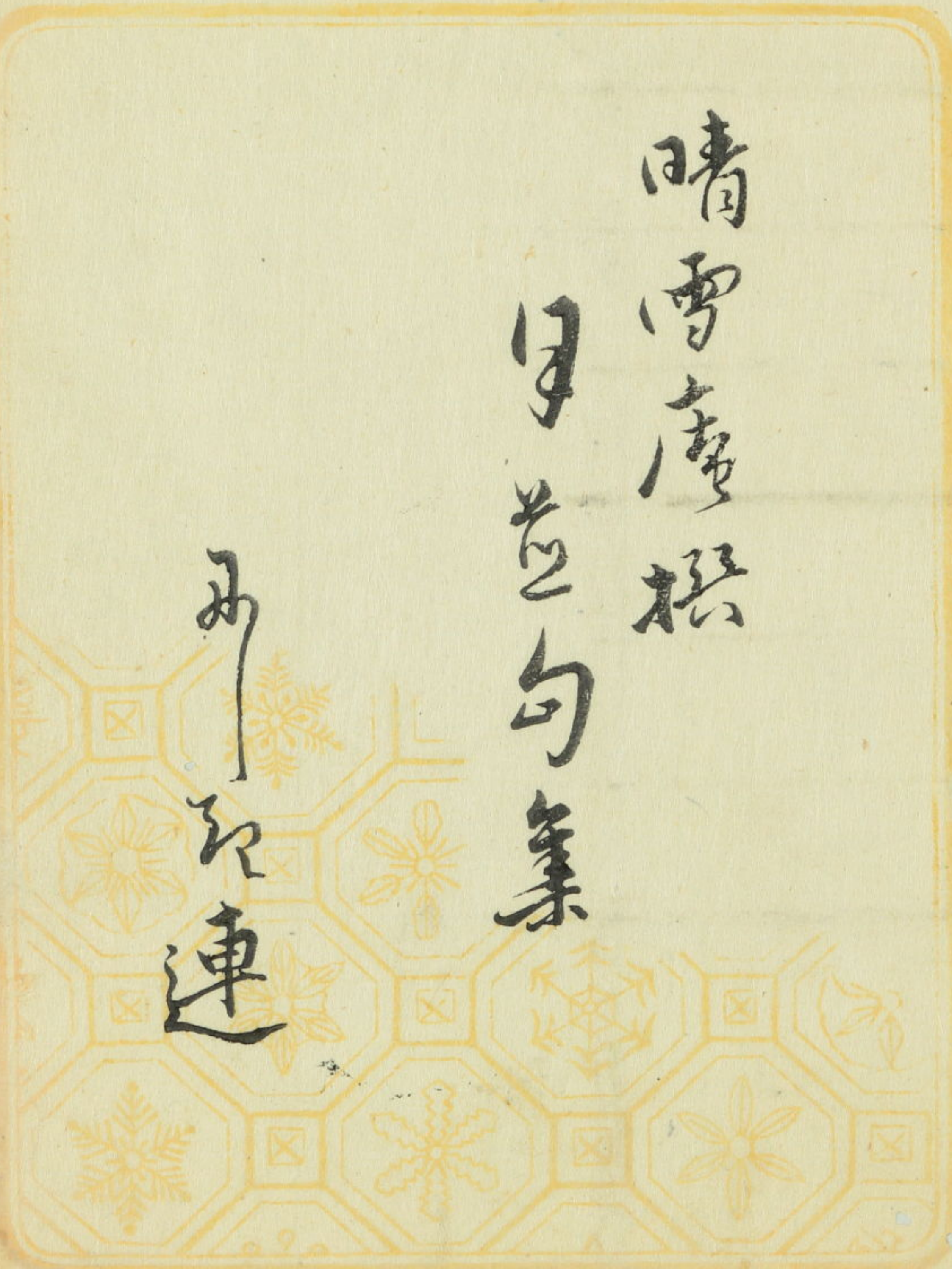
さし

宗瑞

晴雪唐棣

月花句集

み 氏 連



そまけしうけまらぬし 帰らぬを
雪のまきやうらやまをうらやま
降るまはまきやうらやまをうらやま
集らむ勝をうらやまをうらやまを

十月十日 花市所種忌献備
神 々 候 孫 也 漢 之 あり

山ハ成りてをうらやまをうらやま
河 上 へ 登 り け ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
和 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ
集 集 集 集 集 集 集 集 集 集

あつさうやまをうらやまをうらやま
もつさうのやまをうらやまをうらやま
細いやまをうらやまをうらやま
わが城をうらやまをうらやまをうらやま
新ぼんやまをうらやまをうらやま
あつさうやまをうらやまをうらやま
あつさうやまをうらやまをうらやま

朝まやがら七門子 師 へ 呼 ぶ

とまらまの 入 入 入 入 の
点 や 鳴 り 急

判者
泉外

泉外

井田永在 登月
石井 伯子 柳家 折

集者
泉外 泉外
泉外 泉外

竜角五巻
子玄泥月

明らるる月夜に... 柳... 山... 湖... 井... 茶... 菜...
 月夜に... 柳... 山... 湖... 井... 茶... 菜...
 月夜に... 柳... 山... 湖... 井... 茶... 菜...

小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町
 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町
 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町

二六部

本... 月... 山... 湖... 井... 茶... 菜...
 本... 月... 山... 湖... 井... 茶... 菜...
 本... 月... 山... 湖... 井... 茶... 菜...

小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町
 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町
 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町 小川町

二七部

養源菴乾字洋丹表記上

年十月

表記九全目

天八 外六、方 鬼のまのま

子日、
十六
柳青

地八 外六、方 柳や桑と表八てき鳴り

角名
八
玉籠

人七 外六、方 まの木のけや、まの木のすけ

花名、
テ
喜柳

外 外六、方 唐人 花地 秋葉 玉籠 生糸 秋葉 玉籠 柳記

小書中知事千尋の歌

密川や一糸て多き、持てまふ 杏葉
すく柳や柳きりの、唐山人 子青柳
ほれぢくも、大りりりや、あゝ秋葉 花名
二部一木折て、まの木の柳、玉籠 杏葉
鳴りまは、何となく、春のふき、花川 竹良

張本より大根の皮を剥き、粉をすり、
 目取りや皮を大根の皮を剥き、
 人つりや皮を剥き、出あきや皮を剥き、
 不中依りや皮を剥き、作本の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、

花解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、

粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、

粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、

花解
粉解
信解
作本
皮解

花解
粉解
信解
作本
皮解

花解
粉解
信解
作本
皮解

花解
粉解
信解
作本
皮解

善後庵乾海保月三六印上

十二月

善後庵

天ハ夏秋ノ鬼トシハ付チノミ

花月

地ハ夏ノ空ハ枯レテ多ク

花月

人トシノ心ハ多ク酒ノ市度リ

花月

外方

花月

善後庵

粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、
 粉解や皮を剥き、信の皮を剥き、

花月
粉解
信解
作本
皮解

月ハ六ハ初ニテ其のつく 雑書ハ

至丹津ニテ其のつく 水廻り

森廻りニテ其のつく 初馬

後ノまゝニテ其のつく 採の採は色

採の採は色ハ山ハ採ハまゝ

採の採は色ハ目ノまゝハ採ハ

採の採は色ハ目ノまゝハ採ハ

採の採は色ハ目ノまゝハ採ハ

採の採は色ハ目ノまゝハ採ハ

採の採は色ハ目ノまゝハ採ハ

多ク

下宿

採

採

採

採

採

採

採

採

家々屋屋半降月夜白

天

地

人

所

年八月

天那草

葵枝

草佳

草石

草石

草石

草石

草石

草石

草石

草石

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

七下二白

風くく月さきくさきくさきく
如き三層の福
コヤ晴半

酒桶の二
おきくさきくさきく
葵株

清くつさきく
さきくさきくさきく
草衣

酒さきくさきくさきく
さきくさきくさきく
草捨女

酒先すさきく
さきくさきくさきく
酒素

石向さきくさきく
さきくさきくさきく
英理

白屋さきくさきく
さきくさきくさきく
芥良

春さきくさきく
さきくさきくさきく
草更

仲秋中月御衣
さきくさきくさきく
草虫

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

名月
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の山夕日の
さきくさきくさきく
草衣

秋の風
月を照らす
山を映す
水を流す
木を揺らす
花を散らす
葉を落とす
実を結ぶ
鳥を鳴らす
虫を鳴らす
人を楽しませる

秋の風

水所

秋の風

七月初七日

秋の風

秋の風

秋の風

水所

秋の風

秋の風

秋の風

秋の風

秋の風

秋の風

秋の風

右更唐知来評直道三白合 午十月分 十九會月

天 八七日

地 七口口

人 ねむり

葛 桂皮 白風 興来 三宥 仙吏 琴風子 栲觴 危柳

敷中屋うてハ草ハ こん暖竿 草三 栲觴

布引の中ふ川河の枯野うね ウラミ 三 宥

ちれる灯又小燈法光る雲萩ハ 夕九三 栲觴

る露を力月を多分れて呼子音 花三三 松 華

杉の屋る雲来とそくハ初時白 花三三 長 月

夜放色の隙をひと隙木の影ハ 花三三 全 椿 露

栲 林

栲 規 女

琴 風 子

栲 觴

危 柳

草 三

栲 觴

松 華

長 月

全 椿 露

疾臥たちろく一投るや 鏡の骨
 雪子や水もかこひし 穢長者
 舞踏る目を遊うけり散末の柔
 舞うさよ路とハ知らぬ散末
 黄昏を詠むる雪の一トるうか
 井の端水かよら日初也冬の梅
 只ハ初雪も出来て年の色
 燈の消て鏡に指をる雪散うか
 春を待子供にぬるき月日
 雪の上の威りしうき雪の松
 山賣た徳とりりくや櫛ありり
 笑ふ子よ日終多け安き脚色
 夜の石乃菜くす掃也長雪うか
 以人を給りし書あし 雪の松
 湖下ノ聳一し 陰也 賦る山
 時面ろくや英んくうき 沈子舟
 除敷の答云葉少るに床りり
 子く啼や旭の子きとふれやぬ
 秋冷のししく石為嘆ちうか

山伏丁
 穢ヤ
 菊水
 松
 白
 其
 其
 葉
 全
 多
 杏葉
 五名中

多 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 月 九 夕 阿 拈 兄 菜 口 屋 林 旭 矣 白 山

兼山花に向て何くきれうか
 梟子なるる 夜半也 清少
 椽先や小亭の幡乃 知しつ飛
 町並やすく掃く秋の 鏡灯り
 春迄支灯りなきひし 魂おくり
 六中
 瘦むら花と通りぬれハ松野
 明かす 散を以てつむる雪
 兼葉中結の何初る雪のほあり
 燈さす 2 灯のやうきむさ
 散種はえりしハ指さぬ取り
 松竹を雪の来てぬむ日初うか
 脊戸にや萱垣結ふもふ由掃
 松ハ秋ハ福ハ考して 野ささく
 切草ハ秋言くし 散の月
 月暮る中ハも面射て 噴の月
 吟遊ハ海の松く 遊ハく 街
 冬を卓て居る人ハ 師是
 秋多れてるう月ハ 也 餅葉

三
 兔
 三
 氏
 全
 松
 水
 桂
 月
 多
 仙
 景
 其
 一

曉 十 梅 雲
 鳳 蝶 雲
 宵 宵
 觴 華 屋
 屋 更 月
 夕 長

二の鏡下ろす枝風やふく子香
燒草枯出けり匂ひや 冬は梅
提灯の菜を摘む除敷の畠う車
豆豆て雲のけりもや 山の裾
笹の徳垣に 幽ふ日和う水
浪水さく舟のえりて中線つき
試りぬして春に隣りし小松の
万葉に逢ふてとあるや 松は春
来る日の日つかちるる冬の花

秀逸

あろしとえをえー枝のき小
日ハ松は結りて里の暗るう掛
とふきを潜りて一やや 鮎霧
垣へ来る旭をえりて常中雲の香
笑をせて上るよ賣りぬ年法市
寧梅や香かこ 霞ふあそ日和
剪鷹や給馬打て何さゆら板
縁先は紙多ぬさむせり一り
涙をきてうは隈立のせ川の
書きりし一り日一落付小鴨の

風をきて北風よりくる小春
為盤木の中にもあるや冬の色
川上ハ晴て居るうらみせれ
管吹りたまはハ日の遠く暗る小
八下
をめぐると時をてとむし米稻

暹坐

天 甲外 地 誰さ 人 其夕

寧よ入る春のうらむや芦の風
ノ切し舟場は赤戸や暖色の月
新筆を余ふに響るるや多り言
か色果ししす支斗や山は裾
木うししや宙戸あて切山乃古
若ふししや買米入し 唐り駕
山崎のしつとせやく吹きう水
急や中挿りたのむ 小灯提
縁後屋へ来て手百交るや石掛
片羽下ア流ひししけ菜桶

ツ父

ツ父

ツ父

ツ父

光 玉 挂 梅 白 充 善 全 全 玉 新 鳳 骨 屋

都 院 女 杉 一 杉 挂 梅 全 全 杉 全 杉 新 林 杉

一 琴 白 与 杉 林 子 鳳 采 林

松 梅 興 甚 右 進 旭 挂 白 以 華 林 采 旭 顔 屋 風 月

別巻 月旦
 二
 三

川城一とつんてまり合せ鷹

八印

鷹台くや社乃もまの 初月段
 降向を降くて 居るや冬至風

そつふせや明るみ

月台一机先

催司

糸知

甲外
 糸知

元新

外是州 平の勢哉

軸

ふくときまの陰

判者

糸知

龍尾園製

清正の歌

孝平院日記の巻

清正



外亀窟の明撰

六十五

保永

地母の史重人

今序

保永

保永

光野

永曉

永曉

自の伝... 世に... 水... 月... 伝... 支

水... 月... 伝... 支

Handwritten notes and entries in a columnar format, including names like 保永, 光野, 永曉, and 高十明.

Vertical text on the left side of the right page, possibly a date or chapter marker.

松尾の物語

天呂兵衛

地呂兵衛

人呂兵衛

番外 小妻 多の字 菊又 小松 都島 松林 七美の節

去つての... 水... 松... 小妻... 菊又... 小松... 都島... 松林... 七美の節

小妻 菊又 小松 都島 松林 七美の節

松... 水... 松... 小妻... 菊又... 小松... 都島... 松林... 七美の節

小妻 菊又 小松 都島 松林 七美の節

松... 水... 松... 小妻... 菊又... 小松... 都島... 松林... 七美の節

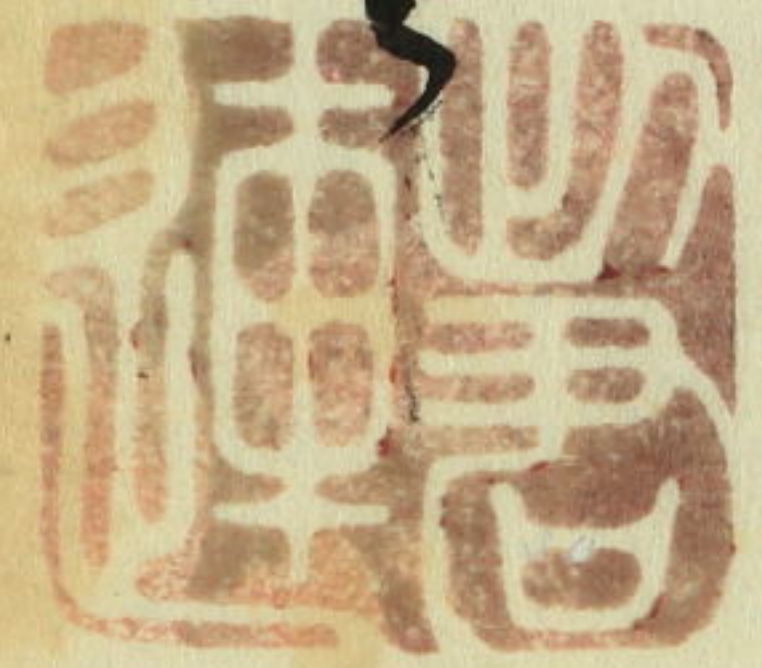
小妻 菊又 小松 都島 松林 七美の節



字の凡葉 亦少誤

日念句集

信三



毎巻七帖
初巻平 帆先揚 中巻日知
名月 中巻梅さく 中巻知
後巻中 中巻道 中巻日知
中巻道 中巻道

皆降 妙法
秋風の無量より
はるばる 梅のうらみ

正

都西女
多の字
生笑

信三
信三
信三

藤井
如也

許三
柏と松

此紙の裏に二つありて、
右紙の裏に二つありて、

天 於村 地 是なり 人 可辨也
右紙

持家 運送唐
天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

天 於村 地 是なり 人 可辨也
於村

